



令和4年度

WWL (ワールド ワイド ラーニング) コンソーシアム構築支援事業  
～Snow Crystal Project in HOKKAIDO～  
カリキュラム開発拠点校 北海学園札幌高等学校

ニュース リポート 第6号 2022 (令和4) 年6月23日 (木)

---

アイヌ民族の植物利用の知恵 ～酪農学園大学 石井教授による特別講義を受け

札幌日本大学高等学校 生徒の感想～

先日の石井教授による特別講義を受け、札幌日本大学高等学校の生徒達から感想を頂きました。印象に残った内容は皆さん似通っていましたが、その感想はそれぞれ違う考えがあり、それぞれ個人のその先に繋がっていくのではないかと考えています。生徒の感想をまとめてみました。

・ 毒で殺した動物でも、正しく処理をすれば捨てる部分がげんこつ一つ分で良いと知って面白いと思いました。アイヌの人々が自然と共生したように、自分達は自然を壊さないような採取をしていく必要があるのだと感じました。(1年Sさん)

・ 採取する山菜によって季節の訪れを知ると言う自然の知恵や、植物や動物を『取り尽くさない』『欲張らない』と言う伝えが自然との共生を大事にしているんだと思いました。アイヌの人達の食文化を伝える事は『私たちに何ができるのか』と言う事を考えるきっかけになりました。(1年Iさん)

・ 世界の文明と同じように、川沿いにアイヌの文化圏が構成された事、毒の処理方法、食材の加工法を知りアイヌの人々の生活が見えてきました。実際にどうやって油や酒が造られたのか、また酒のアルコール度数はどのくらいだったのかが気になります！(1年Sさん)

・飲んでいたお茶にはカフェインがない事や、植物から多くのカルシウムを取っていた事が、手軽にカルシウム等がとれる現代との違いを感じました。『食』とはどういうものなのか、考え・知るきっかけになりました。(1年Aさん)

・保存方法の工夫からたくさんの栄養素を得ていた事や、薬等日用品にも使われていた事が印象的でした。『今の食が40年先に続いているかわからない』と石井教授がおっしゃった言葉にはすごく考えさせられました。(1年Kさん)

・同じ地域でも川筋によって食べられているものが違う事、硬いものや消化の難しい物を食べていた事で自然と太らない・血糖値を上げない体を作り、その事が自然と健康に繋がっていたと知りました。高齢の方もトレーニングのために食べたら良いと思いました。(2年Iさん)

・植物を乾燥するとエネルギーが10倍になることは知らないはずなのに、生きる力としてその事をわかっていたと言う事は凄いな！と思いました。昔の人々が生きるために食料集めに必死だったのに対し、現代では自分で死ぬ事を考えて必死になっていたりと、『生きる』という事に関しての向き合い方が全く違うと感じました。(2年Sさん)

ご返答いただいたアンケートの中には、調理法や保存法に関する様々な質問・意見が多々あり、この講座を通じてアイヌの人々から学ぶ知恵がまだたくさんあることや、私たちが伝えていかなければならない事を知るきっかけになったのではないかと思います。

アンケートにご協力いただきました、札幌日本大学高等学校の諸橋先生・生徒の皆様、ありがとうございました。